

1 自己評価及び外部評価結果

(ひだまり ユニット)

事業所番号	06		
法人名	株式会社ユニバーサル山形		
事業所名	グループホームつばさ栄町		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字横道13-2		
自己評価作成日	平成30年 1月 2日	開設年月日	平成25年 3月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地域に根ざしたグループホームとして、地域の方々との交流や地域資源を活用とした取り組みを心がけています。具体的には、毎年の地区の夏祭りや地区の「農園」で開催される冬季コンサートなどにご招待頂き利用者様と職員で足を運ばせて頂いています。また、寒河江市のお祭りでは地域の子供会の神輿や「臥龍太鼓」という伝統ある神輿や屋台が訪れて下さり、利用者様の毎年の楽しみの一つとなっています。その他にも、事業所として「グループホームつばさ秋祭り」を開催し、ご近所の方に頂いた里芋やねぎを使った「芋煮汁」を地域の方々と共に味わったりして少しずつですが、地域の一員として過ごせる環境になってきている様に感じられます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成30年 2月 16日	評価結果決定日	平成30年 2月 27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:29,30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で事業所理念を唱和する事で、理念を再認識しながら理念の実践に繋げる事が出来ている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや近くの農園で開催される音楽コンサートにご招待を頂き、事業所としてだけでなく利用者様が共に楽しめるように一緒に出掛けている。地域の方々に向けた事業所としての「秋祭り」を開催し地域の方との交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の介護事業所・寒河江市と協同して、近くの商店で認知症カフェを開催した。地区の方々が多く足を運んで下さり交流しながら利用者様と地域の方と楽しい時間を共有できた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の事業所の活動や取り組みなどを町内会長、民生員、家族代表、市職員等と話し合い忌憚のない意見を頂戴している。「もっとこうすれば事業所としてステップアップできる」などnoアドバイスを頂きながら日頃の業務に役立てている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	寒河江市の高齢者福祉係のみならず、寒河江市の「介護事業所連絡会」等を通じて寒河江市の地域包括係との情報共有や協力関係を築き事業所運営に反映している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束に関しては、定期的な勉強会や資料を基に再確認しながら、職員同士の様々な意見を取り入れ工夫する事でケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	今年度の事業所内部研修の一つとして「虐待防止」をテーマとして扱い、虐待防止を再確認する機会を設けている。また、「日頃のケアが虐待にあたらないか」等を自ら振り返り虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者個々の置かれている立場を把握しながら、定期的に日常生活自立支援事業や成年後見制度についても学ぶ機会を設けている。勿論、必要性が生じた場合でも活用できるよう支援できる礎を築いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者は、契約の締結や解約、改定時に十分に説明を行っている。実際今年度は、新たに契約や解約があり、その際にも、しっかりと管理者から利用者やその家族に説明を行うと共に、不安や疑問点を訪ね十分な理解・納得を得ている。内容に変更が生じた際は、同意書を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置しているが、直接利用者やその家族から意見を頂く事が多い。頂いた意見に対して、職員全体で情報の共有を行い改善を図っている。意見を下さった方だけでなく、運営推進会議、市、その他外部にも頂いた意見を開示する事で運営へしっかり反映するように努めている		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的に職員各々と個人面談を行い、普段の業務や定期的な会議においても意見や提案を聞いている。また、代表者も個別的に不定期ながらも職員各々と個人面談をしたり、アンケートを実施しながら、運営に寄せられて意見を反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に職員評価を行い、管理者・主任で協議した評価を基に左記の内容に沿えるように努めている		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、主に管理者・主任から情報を収集し、職員個々と面談する事で職員個々の力量の把握に努めている。不足部分だけでなくその職員がスキルアップできるように法人外の研修にも積極的に参加できるように進めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、積極的に同業者と交流を持つ事で繋がりが築けるように努めている。管理者が寒河江市の「介護事業連絡会」の役員となり市内の同事業所と交流する機会が増えた。職員も同業者同士の研修会にも積極的に参加する事で、事業所としてサービスの質の向上にも繋がっている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限り情報が得られるようにしたうえでサービス開始に繋げている。また、本人やご家族のご要望や不安な事を伺い、「安心した生活」の確保に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用するにあたり、管理者・計画作成担当者が困りごと等をお伺いしご本人とご家族のご要望を聞きながら、良い関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」まず、必要とされている事をしっかりと見極めながら、支援がその人にとって必要な事がなされるように対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も「毎日一緒に生活する者」という認識を土台とし、生活に必要な事を出来るだけ一緒に行い、寄り添った支援を心がけている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで日々の生活の様子や健康面での様子を伝え、面会時にも近況を伝える事で利用者と家族との距離が近いものになるように努めている		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援を通して、出来るだけ馴染みの場所に出向いたり、ご近所の話をしたり、今までの関係が途切れないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格等を見極め、必要に応じて職員が会話の橋渡しを行い、孤立せず利用者同士が関わり合えるよう工夫している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方に対しても、これまでの関係性が継続されるように努めている。必要に応じてサービス利用時の状況を提供しながら、相談やその方のアフター支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話から、本人の思いや意思を引し、その思いに沿えるように努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やその関係者から施設等サービス利用時の情報は、出来るだけ多く取り入れるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの気付き・ちょっとした変化は必ず記録に残し、日々の状態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との会話や日々の記録やモニタリング表ケアカンファレンスを基にした話し合いを行い、意見やアイデアを出し合いそれらを反映させた介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことや日々の変化などは必ず個人記録に残し、モニタリング表やアセスメントシート・利用者ごとの共有ノートを活用。ケアサービスの評価・検討を行い介護計画の見直しと改善に役立っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人支援を通して、馴染みのある場所や(市内の地域資源等を中心に)懐かしさに触れながら今の暮らしが安全で豊かな物になるように努めている		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に協力を頂きながらこれまでのかかりつけの受診を継続して貰っている。また、その際は「情報提供書」を使用し、主治医とホームとの情報の共有に努め、適切な医療が受けられるよう努めている		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師には申し送りや個人記録・受診記録を活用し情報を伝えその都度相談している。事業所の訪問看護師にも専用の情報シートなどを用いホームの看護師同様の手順で情報を伝えている。利用者に変化が生じた場合は24時間体制で連絡が取れるようにしている		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリー・情報提供書を早急に準備し情報の提供を行っている。入院中も病院の相談員・家族と密に連絡を取り合いながらスムーズな退院がなされるようにしている		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居期間が長期化している方のご家族様には、サービス担当者会議の際に終末期のあり方について再確認し、ご家族の希望を伺うようにしている。また、早い段階から「重度化した場合の対応」「終末期」をに起こり得る事として捉えご家族と話し合いをしているが、実際事業所としての方針が不明確な部分がある為しっかりとした基盤を整備する必要もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてはホーム主催の勉強会等を通じて定期的に確認しながら万が一の場合に備え動けるように努めている		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する避難訓練については定期的実践している。しかし、水害対策については周辺の介護事業所法人の関連事業所とも協力や連携が計れるように協議していく必要がある		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の性格・生活歴、ご本人の認知症状に合わせた対応や言葉かけを実践している		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を言い易く、自己決定がしやすい言葉かけを日々アセスメントし工夫している		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般において各々のペースで生活して頂けるように心がけている。手伝いが必要な方については、どんな手伝いをすればその人らしい生活ができるのかを工夫しながら支援している		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みに沿った身だしなみやオシャレが出来るように見守りや言葉かけを行っている		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で採れた野菜や季節を感じられる食材を中心としたメニュー作りを実践し、利用者の好みや希望を伺いながら一緒に買い物に行ったり食事作りや片づけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては毎月の体重の増減や本人の食事摂取量に応じた内容にしている。水分や食事形態について、不足とならず、尚且つ過剰にならないような摂取量が確保できるように工夫している			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは本人に合わせた言葉がけや支援を行っている。義歯使用の方は毎晩就寝前に消毒を実施している			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけ失敗を減らせるようにリハビリパンツ・ズボン下・ズボンのサイズを工夫する等して、自立に向けた支援を行っている			
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回乳製品を摂取できるよう心掛けており、午前のお茶会時にはヤクルトや牛乳等を提供し、その方にあった運動を促しながら出来るだけ薬に頼らないようにしている			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては、希望があればいつでも入浴できるようにしている。ご本人の身体状況も考慮しながら、ご本人だけでなくご家族の希望も取り入れながら実施している			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠の習慣を尊重しながら昼夜、それぞれの生活リズムに合わせて、居室やリビングのソファで休んで頂けるようにしている			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬情報書には、しっかりと目を通して把握するように努めている。服薬介助時に内服介助前の確認を必ず行うように徹底している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前に得た情報やアセスメントより得た情報を基に、役割や楽しみ、気分転換に繋がるよう個別支援に力を入れた取り組みを行っている		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各個人のその日の状態や希望に合わせて外に出かけられるよう業務内容・人員配置に工夫を施している。ご家族の協力を得ながら姉妹に連絡を取り妹さんと思いの場所での面会なども実施している		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の手元にお金がないと不安に感じられる方についてはご家族の了解を得た上でお金を所持して頂いている。買い物に出かけて際には本人の希望に沿った支払なども行っている		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際はいつでも電話をして頂いている。毎年の年賀状のやり取りを行う事で、ご本人・家族共に手元に届いたときの喜びに繋がっていると感じる		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にされた掲示物に力を入れている。エアコン・加湿器・湿・温度計を各利用者居室やフロアに設置し、フロアの電球を白熱灯にする等リラックスして過ごせるように気配りをしている		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々椅子やソファにて思い思い過ごせるような「空間づくり」を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人・家族と相談し、馴染みのモノや馴染みの家具などをお持ち頂き、家族との写真や、家族の写真を飾るなどしながら安心して過ごせるように工夫している		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の状態に沿った環境にする為に、変化が見逃されることの無いように気配りをしている。情報を共有しながら、ご本人が安全に自立した生活が送れるように支援している		